

2007年3月15日

会社名 株式会社 高島屋
 代表者名 取締役社長 鈴木 弘治
 コード番号 8233

2007年2月度 高島屋営業報告

【 総 計 】 (前年対比、単位：%)

(株)高島屋計	分社4店含む実質
+0.5	+0.6

百貨店事業の売上は前年を下回りましたが、広域事業が法人事業の好調により前年を大きく上回ったため、総計では4ヵ月ぶりに前年比プラスとなりました。

※分社4店とは、関西地区の岡山高島屋・岐阜高島屋・米子高島屋、関東地区の高崎高島屋です。

【百貨店事業概況】(前年対比、単位：%)

分社4店除く	18店計
△0.9	△0.6

百貨店事業は昨年2月に比べて振替休日が多い(12日)ことなどにより、18店中15店が前年の売上を上回りましたが、新宿店の改装工事の影響が大きく全体では前年を下回りました。

【店舗別概況】(前年対比、単位：%)

関西地区	大阪店	京都店	泉北店	岡山高島屋	岐阜高島屋	米子高島屋
売上高	+2.7	+2.3	△6.4	+0.3	+1.7	+4.3
入店客数	△2.1	+2.2	△1.8	△8.9	+3.0	△0.8

関西地区合計	
分社3店除く	9店計
+1.7	+1.6

※大阪店の売上高には和歌山店・堺店の売上高を、京都店の売上高には洛西店の売上高をそれぞれ含みます。

※大阪店・京都店の入店客数はそれぞれ単店になります。

関東地区	東京店	横浜店	新宿店	玉川店	立川店	大宮店	柏店	高崎高島屋
売上高	+1.3	+1.1	△18.8	△0.0	△3.4	+0.7	+1.0	+4.4
入店客数	△0.9	△0.2	+0.2	+3.8	△5.1	△0.4	△1.8	+1.8

関東地区合計	
分社1店除く	9店計
△2.3	△2.1

※横浜店の売上高には港南台店の売上高を含みます。

※横浜店の入店客数は単店になります。

関西地区では、大阪店の春物衣料の動きが活発なことに加え、京都店の食堂や食料品が改装効果の持続により好調なこともあり、全体で前年の売上を上回りました。商品別では、食堂(前年比+24.1%)、宝飾品(同+7.4%)、婦人雑貨(同+4.4%)、食料品(同+2.4%)、紳士服(同+2.3%)などが好調で、美術(同△20.1%)、紳士雑貨(同△1.5%)、リビング(同△1.4%)が前年に届きませんでした。関東地区では、東京店や横浜店など多くの店舗が前年売上を上回りましたが、新宿店の改装工事の影響で、全体では前年の売上を下回りました。商品別では美術(前年比+10.3%)、婦人雑貨(同+3.0%)、呉服(同+2.7%)が前年を上回りましたが、リビング(同△5.7%)、婦人服(同△4.7%)、特選衣料雑貨(同△4.4%)、食料品(同△1.1%)が前年比マイナスとなりました。

【広域事業概況】(前年対比、単位：%)

	法人事業	通販事業	広域事業計
売上高	+28.8	△6.5	+15.9

法人事業は大口の新規案件獲得などにより、前年の売上を大きく上回りました。通販事業は新春・早春のカタログ受注が伸び悩み前年の売上には届きませんでした。広域事業全体では前年比+15.9%と好調な結果となりました。

【商品別概況(百貨店協会商品区分)】(前年対比、単位：%)

	(株)高島屋計	分社含む実質
紳士服・洋品	+5.6	+4.9
婦人服・洋品	△1.9	△1.7
子供服・洋品	△3.8	△3.4
その他衣料品	△10.8	△10.2
衣料品計	△1.3	△1.2

	(株)高島屋計	分社含む実質
身のまわり品	+0.2	+0.4
家具	△6.8	△6.2
家電	+31.2	+30.8
その他家庭用品	+1.0	+2.7
家庭用品計	+1.4	+2.7

	(株)高島屋計	分社含む実質
食料品	+0.2	+0.0
食堂・喫茶	+8.4	+7.7
雑貨	+4.1	+4.3
サービス	+2.5	+2.6
その他	+1.6	+1.1
合計	+0.5	+0.6

〈当社分類による百貨店事業の商品別概況(臨時・特注を除く)〉

紳士服(前年比+0.3%)は先月に続き前年比プラスとなりましたが、婦人服(同△2.4%)は新宿店の改装工事による売場閉鎖の影響などにより苦戦しました。また、特選衣料雑貨(同△2.0%)は低迷が続いていますが、婦人雑貨(同+4.2%)は引き続き好調を維持しています。

ほかに前年を上回った商品は、宝飾品(前年比+2.7%)、呉服(同+1.6%)、食料品(同+0.4%)がありましたが、美術(同△7.2%)、子供服等(同△4.9%)、リビング(同△1.9%)などは前年を下回りました。

以上